

幼児教育・学校教育に携わるすべてのみなさんへ

育ちと学びをつなぐ

「幼保小の架け橋プログラム」をご存じですか？

昨年7月から開かれている、文部科学省中央教育審議会「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」で議論されたものです。「架け橋期」と「架け橋プログラム」に分けて、お伝えします。なお、横浜市は文部科学省の「幼保小の架け橋プログラムにおける調査研究事業」の自治体として採択されました。今後、国と協働しながら、本プログラムを推進していきます。

かけはしき【架け橋期】

「経験を活かしながら新たな課題を発見し、新しい方法を考え試しながら実現していく5歳」と「自分の好きなことや得意なことを生かしながら、学びや生活につながる力を育む6歳」の2年間のこと。生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる重要な時期とされている。

かけはしプログラム【架け橋プログラム】

架け橋期の学びの充実に向けて、各地域や施設の創意工夫を生かした取り組みが深まっていくよう、子どもに関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携、協働し、…(中略)…すべての子どもに学びや生活の基盤を育めるようにすることを目指すもの。

※いずれも「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)」より抜粋。



昨年度の幼保小連携推進地区の活動報告書から、架け橋プログラムの実施に当たって、職員間の協働のヒントになりそうな事例を紹介します。ぜひ、園や学校で取り組んでみてください。

大口台地区 保育士と小学校の先生による『合同職員研修会』

- 保育所で過ごす子どもの姿を写真で見合い、その子の育ちや学びを共有しました。「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を手掛かりに話し合うと、「あの子どもはこんなところが育っているんだなあ」と、子どもを肯定的に見る「まなざし力」が深まりました。
- 保育士に、保育所で流行っている手遊びやゲームを教わりました。小学校でもやってみたい!きっと子どもたちも喜ぶだろうなあ…。



中村地区 小学校の先生が、保育園で『一日体験』

- 夏休みに、一年担任が保育園にて一日体験をさせていただきました。先生方が連携して保育に当たる様子を感じることができた。年長児クラスでは、言葉遊びを大切にされており、教室にはたくさんの詩や歌の歌詞が掲示してありました。
- 朝の会でも継続して言葉遊びをされていました。保育園の体験を通して、入学するまでに、遊びの中で数を覚えたり、友達との関わり方を覚えたりしていることが分かりました。0からのスタートではなく、保育園で多くのことを学びその土台をもって入学していることを意識していかなければならないと感じました。



上郷地区 小学校初日 園の保育者の授業参観と参加

- 登校初日、各クラスに園の職員が入り、子どもたちに声をかけながら園で親しんできた手遊びや読み聞かせなどを行いました。その後、担任の指導の様子なども参観してもらいました。
- 子どもたちの表情がやわらぎ「学校」「教室」の敷居が少し低くなったように感じました。小学校教員は園で使っていた子どもたちに馴染のある言葉かけを知ることができ、参考になりました。



小山台地区 オンラインでの連携推進担当者会の実施

- オンラインミーティングを活用して、担当者会を実施しました。4月からのスタートカリキュラムの様子を伝えたり、小学校紹介ビデオに求める内容について意見交換したりすることができました。感染症への対応には、どこでも時間をかけて、丁寧に対応していることも分かりました。



担当者間の交流でICTを活用



連携先の園児に小学校を紹介する動画をつくる1年生